

藤里森林生態系  
保全センター

令和2年11月27日

No.95

# 白神通信

～秋田県側白神山地より

谷藤所長の四方山話

植林体験と自然観察会

藤里幼稚園、岳岱たんけん！

藤里町民のみなさんと

小林あずみ専門官より離任のあいさつとお知らせ

## マツノクロホシハバチの生息状況調査

—数えることの重要性—

紅葉最盛期を迎えた釣瓶落峠(2020.10.21 有本)

## 谷藤所長の四方山話 一降雪期を迎え一

日増しに冷たい風が吹くようになり、今年も山が白い衣をまとう時期がやってきました。

昨年は異常な少雪によりニホンジカの調査をはじめとした冬期間の業務はしやすかったものの、予定していた雪上トレッキングのイベントが実施出来ないなど、思わぬ弊害も出た年でした。一方、「今年は大雪になる」という見通しらしいのですがどうなることやら。

さて、話は変わりますが、去る 11 月 4 日から 6 日にかけて九州森林管理局と屋久島森林生態系保全センターの方々が白神山地の現地視察と意見交換のため東北局管内に来られました。広報をお読みの皆さんがご存じのとおり屋久島は白神山地と同じく 1993 年に世界自然遺産に登録されており、今回はシカ対策や登山者等の入山状況についての意見交換と屋久島には生育していないブナの視察などを目的としたものです。当初、気軽にブナ林が見られ白神山地世界遺産地域の緩衝地域でもある二ツ森自然観察教育林の現地視察を予定したのですが、視察予定日は二ツ森登山口までの町道が冬期間の通行止となるため、急遽、視察箇所を岳岱自然観察教育林へ変更しました。二ツ森は視察を予定していた前日、吹雪に見舞われ、路面には 3 センチほどの積雪があり車両の通行が難しい状況となり、視察箇所の変更が功を奏した格好となりました。

岳岱自然観察教育林はこの数日、強風が吹いてブナの葉がかなり落ちてしまいましたが、一部ではまだ黄葉も見ることができ、短い時間の中で白神山地の雰囲気を感じていただくことが出来たと思います。

冬期間には屋久島でも一部の高山には降雪があるそうですが、この時期、藤里と屋久島では気温差がおよそ 10 度もありますし年間の気象条件もかなり違います。これにより、生息している動植物の種類も大きく異なります。

今後も、取巻く環境は違うものの森林生態系の維持管理をはじめ、双方の業務について情報交換を続けていければと思います。遠路はるばるとお疲れさまでした。

背景写真：屋久島森林生態系保全センター岳岱視察時



## 植林体験と自然観察会

令和2年9月4日(金)、世界自然遺産地域「白神山地」の魅力伝えることのできる生徒を育成することを目的に、NPO法人あきた白神の森倶楽部主催の白神プロジェクトフィールドワークが行われました。秋田県立ニツ井高校の生徒38名が参加し、当センターからは植樹指導及び白神山地の観察ガイドとして職員3名が出席しました。

岳岱自然観察教育林の観察ガイドでは、白神山地は約八千年前から変わらぬ原始日本の自然の姿を残した広大で豊かなブナの森であり、また多種多様な生物を育む森林生態系

が形成されていること、未来に遺していかねばならない宝物であることなど魅力を伝えました。

生徒たちも森の中に入ると、いろいろな物に興味を示し生き生きとしていて、自然の素晴らしさを改めて実感した時間となりました。(山内)



伐採後地にブナを植林しました



岳岱での自然観察会  
ハンゴンソウを解説する小林専門官

## 藤里幼稚園、岳岱たんけん!

藤里幼稚園の園児18名が、岳岱自然観察教育林を探検しました。10月8日(木)に世界遺産センター藤里館で事前学習をしてから、12日(月)にいざ、岳岱へ出発です。子供たちは渡された「たんけんカード」に載っている葉っぱや木の実を探しながら、元気いっぱいブナの森を散策しました。中でも大人気だったのが、ツキノワグマも大好きなブナの実。小さな手いっぱい拾って来ては「これもむいてー!」とせがむので、押しに弱い私はブナの実をむき続けました。慣れない環境教育の場で思うように子供たちを先導できず、反省…。ですがみんな楽しんでくれたみたいで、なによりけがもなく無事に探検を終えることができました。この体験が少しでも、子供たちが地元の自然に興味と愛着を持つきっかけになればと思います。(鈴木)



400年ブナと記念撮影



遺産センターで事前学習



ブナの実拾ったよ



たんけんカード、  
いくつ見つけたかな?



## マツノクロホシハバチの生息状況調査 —数えることの重要性—



マツノクロホシハバチの終齢幼虫  
(東北森林管理局 HP より)

本州最低標高に生育する小岳山頂周辺のハイマツ群落では、以前よりマツノクロホシハバチ(以下、ハバチ)に葉を食べられて枯損する被害が発生していました。当センターでは小岳における年ごとのハバチの発生状況にある程度正確に比較できるように、一昨年から統一した調査基準を設けてモニタリングを始めました。

過去の調査では、ハバチが終齢幼虫で観察しやすい秋期に小岳に登り、幼虫がいたかいなかったか、沢山いたか少なかったか、観察者の主観で記録にとどめるのみでした。このような在・不在データを記録する調査はいわゆる『定性調査』と呼ばれるもので、例えばある特定地域の動植物相の目録

作りなどが該当します。この手法では種ごとの個体数の経年変化や他地域との個体数の比較など数値による比較が出来ず、大発生しているのか?通常の発生量なのか?判断できません。

そこで一昨年からの調査では、小岳に至る登山道上で最初にハイマツが見られる地点(目印となる大きな岩があります)から山頂まで、約250mの登山道を調査ルートとして設定し、ルートの左右約2mの範囲に生息するハバチの幼虫の集団数を数えることにしました。発生数が少なく余裕があれば、1匹ずつ個体数までカウントしていきます。調査ルート外のハイマツについては、参考記録として登山道上から双眼鏡を使用して発生状況を確認し、発生箇所を図面上に記録するのみとしました。このように調査箇所や手法を統一して数量を記録する調査は『定量調査』と呼ばれるもので、手はかかりますが発生数の増減などの比較が可能なデータが得られます。当センターで実行中のセンサーカメラによる中・大型哺乳類調査もまさにこの定量調査で、個体数まで記録することでハクビシンの増加傾向などを把握することができます。



調査起点、  
この岩が目印



ハイマツの葉に目を光らせる山内指導官

さあ数えまくってやるぜ、と意気込み毎年秋に小岳に登って早三年。今年は10月2日(金)に行きましたが、何とこの3年間ハバチは全く見つかりません！終齢幼虫で繭を作って越冬するため、時期が遅かったかとも考えましたが、幼虫が食べて枯れた葉も見られなかったため、この3年間ハバ



(向白神岳)

調査終点、小岳山頂直下のハイマツ群落を双眼鏡で観察する鈴木さん



(ニツ森)

今年もハバチの幼虫は見つかりませんでした

チはほとんど発生しなかったものと思われます。健全な森林生態系が維持されていれば、通常ある種の昆虫が大発生しても、少し遅れてその天敵が大発生して自然と収束に向かいます。今の小岳はそんな健康体なのかもしれませんが、何かのきっかけでナラ枯れのようにハイマツの食害が急激に広がる可能性もゼロではありません。来年以降もこの調査基準を用いて、ハバチのモニタリングを継続していきます。(有本)

—調査で出会ったキノコたち—



サンゴハリタケ(食用)



ハナビラニカワタケ(食用)



タヌキノチャブクロ(食用)



アシグロタケ(出汁取用)



キホウキタケ(毒!)



ツキヨタケ(毒!)



## 藤里町民のみなさんと

今年度は新型コロナウイルス感染拡大を受けイベントの中止が相次ぎましたが、9、10月には、感染防止に努めつつも藤里町民のみなさんと交流できる機会がありました。

ひとつは、9月25日(金)と30日(水)の2回行われた、藤里町社会福祉協議会主催の「まち自慢講座」です。昨年同様、主にセンターの活動内容や白神山地の生態系保全についてお話させていただきました。

またもうひとつは10月24日(土)に藤里町民体育館で開催された藤里町民祭で、センターの活動を写真で紹介したパネルを展示させていただきました。

普段は町内で人と関わる機会が少ないので、町民のみなさんに白神山地の生態系や私たちのこと



哺乳類の調査について  
説明する有本専門官



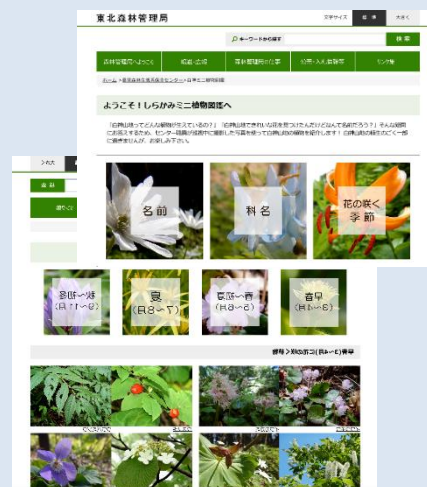
ご覧いただき  
ありがとうございました

ことを知ってもらい、私たちも町の魅力を再発見できる良い機会になったと思います。熱心に聴いて、見てくださったみなさん、ありがとうございました！(鈴木)

### 小林あずみ専門官より離任のあいさつとお知らせ

ついこの間、「2度目の藤里センターよろしくお願ひします。」と書いたばかりな気がするのですが、残念なことに10月1日付で異動することになってしまいました。白神山地という世界的にも恵まれたフィールドの中で、川につかり藪を漕ぎ、多くの植物や虫に触れそれらに季節を教わりながら働いた1年半は、短かったですが大きな財産になったと思います。心残りは4月から担当することになったばかりの広報担当を半年で離れることですが…、これからは一読者として期待していますね。

さて、最後の広報の仕事として、皆様にひとつお知らせを。センターホームページに以前より掲載されている「白神山地ミニ植物図鑑」がこの度リニューアルされました！！白神山地で見られる植物たちのなかのごく一部(草本79種、木本44種)になりますが、職員が仕事の合間に撮りためた写真と一緒に紹介しています。検索リストも種名順、花の咲く季節順に科名順が追加され、すべてのリストに小さな写真も添付されています。花の名前を調べたいとき、きれいな植物を見て癒やされたいとき、ぜひ一度ご覧下さい。



(発行)林野庁 東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター

〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添 24-3

TEL:0185-79-1003 FAX:0185-79-1005

